

# 会 議 議 事 録 ( 抄 )

会 議 名	第一回 バイオ・環境系 教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成 26 年 7 月 18 日 (木) 15 時 30 分～17 時 40 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール (第一部)、1001 教室 (第二部)
参 加 者	外部委員：5 名 内部委員・学内関係者：5 名
	<p>&lt;外部委員：5 名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>池上 正人 (NPO 日本バイオ技術教育学会／東北大学名誉教授)</p> <p>佐々義子 (NPO くらしとバイオプラザ 21)</p> <p>西村実 (株式会社アイ・エス・ソリューション)</p> <p>小野寺 洋子 (株式会社光英科学研究所)</p> <p>皆川 剛 (水 ing 株式会社)</p> <p>&lt;内部委員：3 名&gt;</p> <p>大江 宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科 科長、環境テクノロジー科科长、議長)</p> <p>松井奈美子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー 科、書記)</p> <p>井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科)</p> <p>&lt;学内関係者・第一部参加者：2 名&gt;</p> <p>三上 孝明 ( 同 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長、第一部のみ)</p> <p>白井 雅哲 ( 同 企画部長、第一部司会、第一部のみ)</p>
会 議 録	<p>&lt;第一部 全体会 (「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と合同開催) &gt;</p> <p>開会の辞・スケジュール案内 (司会)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明</li> <li>2. 委員のご紹介</li> <li>3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認</li> <li>4. 平成 25 年度自己点検評価報告書の概要説明</li> <li>5. 平成 26 年事業計画概要と取組み内容の説明             <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度学園組織、改編報告</li> <li>・職業実践専門課程、認定報告</li> <li>・教育訓練給付金制度 (専門実践教育訓練) 調査票、提出報告</li> <li>・リアルジョブプロジェクト、進捗報告</li> </ul> </li> </ol> <p>&lt;第二部 系別分科会&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議長挨拶 (大江)</li> <li>2. 前回議事録確認 (大江)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材目標 バイオ：命と健康を守る分析技術者・生産技術者 環境：持続可能な社会づくりに貢献できる環境技術者</li> <li>・前回指摘事項                 <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオ：バイオ実験英語の苦手意識 →簡単な化学実験書 (英語) を用い実験を交えて楽しく実験を学ぶ 《指摘事項》発音になども気を付けて教える必要がある</li> <li>動物実験系授業 →準じた科目などを設定開講予定。講師を探している</li> <li>環境：エンジニアリング系授業 →<u>数科目設定し授業開始</u> 電気系、機械系の基礎科目が必要</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> <p>《現状》入学生の学力の低下が目立ち、特に化学・物理・数学の基礎学力強化が必要である。</p>

両科共通：

特許・知的財産→全学科で必要とされている。その為、知財リテラシーとして全学科で開講予定

実験マナー、掃除、実験のまとめ方、→実習レポート、実験ノートの提出

《指摘事項》材料は別項目として記入すべき。レポートとノートと分けられている理由は何か。現場でのノートの書き方を教えた方が良い。学生の負担が大きいのではないか。学生のレベルではこのようなノートを書く事が必要ではないだろうか。

計算力・物理・化学の入門

《指摘事項》入学前に補講を行うことはできないか→以前プレスクールを実施したが、通常授業と並行して行うため、教員の負担が大きい。外部に入学前準備教育を委託する、もしくは課題を出し、個人で実施してもらおう。

### 3. 意見交換

議題：環境テクノロジー科 科目設定、各就職分野でどのような授業が必要か

生物調査や自然環境保全に関わる仕事を希望する学生が多いが、高い経験値を要求されるため、下積みが長く、新卒では正社員登用を受けにくい。

正社員登用を見込める環境分析や公害防止プラント等設備関連の授業に力を入れていきたい。

《指摘事項》

- ・エンジニアリング系、分析系では必要な基礎科目が異なる。

その為色々な教科が点在し、詰め込み過ぎではないか。企業では全てを学んだ学生を採用するのではなく、各分野で学んだ学生を採用し、仕事をしながら他分野を学んでもらっている。その為、こんなに幅広く教えなくても良いのではないか。

→全く授業で触れていないと就職後にどこを勉強していけば良いかわからないので、最低限知っておかなければならない内容は学ばせておきたい。また、どの程度まで教えておけば良いかお伺いしたい。

実習の範囲で必要な知識として工学や電気（電子）を教えれば良いのではないか

- ・エンジニアリング系で募集したとしても、公害防止管理者水質4種を取ることが売りにはならないか？（外部委員）

- ・自然に関する科目を無くしてはどうかという意見もあるが、環境を学ぶ上で自然は重要と考えているため、今のところ減らす予定はない。（内部委員）

企業回答→地層を観察したり、水質をみたりと自然観察は必要である。

その為自然関連科目は少なくしなくて良いと思う

### 4. 次回日程について（大江）

- ・平成26年11月28日（金）15時30分～17時30分

### 5. 閉式の辞（大江）

17:40 終了

以上